
1. 全体編

1-1. AI概要に対する理解や関心

- 理解度
 - 回答者の多くが「理解できた」または「どちらかといえば理解できた」と回答しており、短縮2時限ながらもAIの概要や仕組みについて一定の理解が得られたようです。
 - 「画像生成AI」「画像認識AI」「AIの学習プロセス」などを通じて、AIがどのように動いているのかを体験的に学べたことで、親しみを感じるきっかけになったという声が散見されました。
- 難しく感じた内容
 - 「深層学習の仕組み」や「学習データが足りないと誤認する原因」など、内部のアルゴリズムや学習プロセスをイメージしづらいという意見がいくつかありました。
 - 「画像を正しく認識させるために写真を多く撮って学習させる」作業が大変だった、という具体的なコメントも見られます。
- 興味を持った内容
 - 「AI合成写真(Pa写)の体験」「対話型AIの体験(AIミネルバくん)」は、実際に操作してすぐ結果がわかるため、特に面白いと感じた学生が多かったようです。
 - AIが間違える様子や、与えるデータ次第で結果が変わる点も、印象に残ったという回答があります。

1-2. AIに対するイメージ・今後の活用

- AIのイメージ変化
 - 受講前は「どちらかと言うと使いたくない」だった学生が、受講後に「積極的に使いたい」へと回答を変えた例があり、短い授業ながらAIへのハードルが下がったことがうかがえます。
 - 「AIは万能ではないが、活用すれば便利」という認識が広まり、「AIをむやみに信頼するのではなく、正しく使う必要がある」という理解が深まった学生もいました。
 - 今後の活用や可能性
 - 回答の中には「課題研究で活用したい」「わからない時に使いたい」「農業での売上予測に活かしてみたい」といった具体的なアイデアがあがっています。
 - 一方で、「AIの内部をもっと知りたい」「写真やデータが多く必要になるなら準備が大変そう」という意見もあり、実際に活用するにはさらに時間や学習が必要だと感じる学生もいるようです。
-

2. 学年別編

今回のアンケートには「学年を選択してください」という設問があり、1年生と2年生の回答が混在しています。回答数が少数であるため大きな傾向を断定することは難しいですが、アンケートに見られた範囲での特徴をまとめました。

2-1. 1年生の傾向

- AIへの関心度
 - 「画像合成が難しかったが面白かった」「写真をたくさん撮るのは大変だったが、AIが学習して認識するのがすごい」など、初めてのAI体験への新鮮な反応が多い印象です。
 - 授業後も「積極的に使いたい」と思う学生が多く、特に「農業で販売する時に役立てたい(売り上げ予測など)」という具体的な活用イメージを持った回答が散見されました。
- 今後の課題・可能性
 - 1年生ということもあり、まだAIをどのように学習していくか具体像は持たないケースが目立ちますが、「今後の学習や課題研究で使うかもしれない」と興味を持つ声があります。
 - データ収集やモデル作成など、より本格的なAI活用へ進むにはサポートが必要そうだ、という意見も一部見られます。

2-2. 2年生の傾向

- AIへのイメージ変化
 - 2年生の一部では、受講前に「使いたくない」と思っていたが「積極的に使いたい」へ変わった例があり、AIを身近な道具として認識し始めた様子です。
 - 「AIが間違える例を見ることで、あくまで活用次第で便利になるものだと分かった」「AIに対して持っていた偏見が減った」という声があり、より客観的な見方をするようになった学生もいます。
- 今後の活用・具体的な利用シーン
 - 1年生同様に「課題研究やわからない時に使ってみたい」という回答がある一方、2年生の中には「農畜産に活用したい」「今後の進路や就職にもAIが必要かもしれない」という意識が少しだけ表れている印象です。
 - ただし、アンケート数が限られるため、2年生全体のはっきりした傾向として示すにはデータが不足しています。

3. まとめ

1. 全体を通じた学びと変化

- 短縮2時限ながら、AIに対する「興味・関心の喚起」と「AIは間違えることもあり、使い方が重要」という理解が進んだ様子が見えてきます。
- また、実際にAIに触れることで「積極的に使ってみよう」という声が増え、AIを学習や日常の課題解決に活かす可能性が広がってきたようです。

2. 学年ごとの特徴

- **1年生:** 初めてのAI体験に対して素直な興味や驚きを示す回答が多く、「売上予測」など具体的アイデアを挙げる学生も。まだAI活用の本格的ステップにはやや遠いものの、今後の学習で取り込む余地が見えてきます。
- **2年生:** もともとAIに対して懐疑的だった学生も、活用を前向きに捉える変化が見られました。進路や農業への応用など、より現実的な視点でAIをとらえる姿勢が一部見えてきます。

3. 今後の可能性と課題

- さらにAIを活用するためには、写真やデータの収集、AIへの学習方法など、より具体的な手法を学ぶ必要があることを学生自身も認識しているようです。
 - 「考える」「伝える」の側面に関しては、アンケート内に直接的な設問がないため詳しい分析は困難ですが、AIとのやりとりや学習データの準備などを通じて、自分の意図や目的を明確にし、正確に伝える力が不可欠であることを感じた学生もいる可能性があります（ただし回答の明示は少ない）。
-